

TAO医師団×神栖市若手医師きらっせプロジェクト共催
地域医療シンポジウム「今こそ！神栖で地域医療の神髄に触れよう！」

開催報告書

1 日 時

令和6年10月13日（日） 10：00～20：00
10月14日（月・祝） 9：30～11：45

2 場 所

シンポジウム・・・かみす防災アリーナ ホール
交流会・・・・・・アトンプレスホテル国際館ルクソール

3 参加者

199人（一般119人、学生31人、主催26人、事務局23人）

4 概 要

神栖市若手医師きらっせプロジェクトとTAO医師団（地方創生医師団）の共催により、地域医療を志す医学生や若手医師を応援し、ともに学び、働き、活躍する環境や体制づくりに資することを目的に、地域医療シンポジウムを開催。市内外から医療従事者や学生、自治体職員など約200人が集い、地域医療の課題や関係機関の連携を深める必要性などについて活発な議論が交わされた。最終日には2日間の総括として神栖宣言を発表した。

5 まとめ

(1) 1日目（10／13）

ア 市内探訪（10：00～12：00）

①概要

シンポジウムでの活発な議論に資するため、希望者が3つのコースに分かれて市内各所を訪問した。探訪に当たっては、市民・企業・医師・市職員がガイドとして訪問先を案内した。

（目的）○市民・企業の参加者から、どのような医療が望まれているのかを直接聞いてもらう

○アテンドの医師や市民等を通じて、神栖を感じてもらう

（訪問先）

第1班「歴史と都市拠点コース」	①息栖神社・にぎわい拠点	②鹿島セントラルホテル
	③神栖中央公園	

第2班「スポーツ交流 フィールドと漁港、地 場産品コース」	①WINDS BASE ③若松運動場※ ⑤利根川河口※	②ジャーニー若松グラウンド※ ④波崎漁港 ※車窓から
第3班「鹿島臨海コン ビナートと都市公園コ ース」	①神之池緑地公園 ③ユーリカ号乗船	②鹿島港乗船所

②神栖市固有の医療事情に係るアンケート調査

本市の主要産業における医療ニーズを把握するため、令和6年8月にアンケート調査を実施。調査結果を「神栖市固有の医療事情」として、シンポジウムのプログラムに掲載し、参加者へ情報提供を行った。

(アンケート内容)

医療需要に関する質問

- 農業・漁業従事者、スポーツ合宿での来訪者に特有の疾患や身近で起こっている疾患について
- 医療体制の現状に対する評価について
- 市の医療体制に望んでいることについて

(調査対象)

農業従事者	20～60代の農業・漁業従事者及び外国人労働者(技能実習生)の雇用主
漁業従事者	
旅館業者	スポーツ合宿受入先のホテル2件、旅館4件

イ 神栖市内探訪報告(13:10～13:40)

学生有志が市内探訪の報告を行った。TAO医師団の江角団長などが各チームのプレゼンを審査し、神栖で暮らすカップルをイメージした動画を作成したAチーム(第1班)が最優秀賞に選ばれた。

ウ オープニングプレゼンテーション(13:40～14:45)

①プレゼン1 TAO医師団(地方創生医師団) 団長 江角 悠太

「日本の全てはへき地になる。へき地精鋭がこれからの日本をつくる」

- 人口減少や少子高齢化が進み、ひと、もの、かねがなくても幸せになる時代へと価値観の転換が必要
- 地域医療の問題は、医療従事者だけではなく、住民、行政、大学、

地域に責任のある全ての人間が取り組まないと解決できない

- 医師はお金と制度で集めて義務で縛ることはできるが、やがていなくなってしまう。地域に根差した医師を集めるためには、地域への愛着が重要
- 学生が地域に必要な医療ができる医師となり戻ってくるために、住民が必要な医療を理解し、伝えていくことが必要

②プレゼン2 きらっせプロジェクトコーディネータ 永井 秀雄

「心がけてきたこと・分断しないこと」

- 医師になった原点は患者を診るということ。多くの職種と一緒に、多職種連携の中で患者を診ていくことが重要
- 患者の生活の質を向上させるため、急性期から回復期、そして介護まで、分断せず一貫して患者を見守ることが必要
- 若い先生方が専門医を目指していく一方で、専門医が多ければいい医療につながるかということ必ずしもそうではない。これからの専門医は患者をトータルに診ていく総合診療の力も必要
- 医学の知識を広く持ち、臨床医学や内科学、外科学を統合することで高みを目指していくことが必要

③プレゼン3 神栖市医療対策監 藤枝 昭司

「地方自治体からのメッセージ・地方行政マンの微笑みと悲しみ」

- 地域医療の醍醐味のひとつは、地域の方々との連携・協働。行政とうまくコラボするための鍵は、目標や課題を共有して、それぞれ自分のミッションを果たそうという覚悟とわくわく感
- 若い医療者には、自分がやりたい診療や研究などに存分に取りくんでもらい、その延長線上に自治体との協働が必要であれば積極的に利用してほしい。自治体は、広い視野と柔軟な感性を持つ医師を応援したい
- 地域医療を志す人の思いや行動にブレーキをかける仕組みや思惑が見えることもあるが、自治体職員は地域医療を志す人を全力でサポートしていきたい
- 医師偏在や地域医療体制という問題は、病気とは違って人間がつくり出したもの。色々な人が課題を共有して、ベクトルを合わせれば必ず解決すると思う

エ トーク&トーク第1部 (15:00~17:00)

テーマ1 「それぞれの思い 地域医療の理想と実際」
～はじめに地元医師のリレートーク～

テーマ2 「フィールドの魅力と可能性～広い空の下で～」

○地元医師のリレートーク

地元医師8人が、学生時代に抱いていた地域医療の思いと実際について披露した。当地域の暮らしや市民の思いを知り、希望と熱意を持って地域全体で取り組んでいくことの大切さなどを語った。

(発表者及び要旨)

白十字総合病院 消化器内科部長 赤井 博孝

- ・専属産業医の経験を活かし、臨床医と嘱託産業医の両軸で勤務をしている
- ・白十字総合病院では健診を多く担当。健診で患者さんに覚えてもらうことがその後の来院に繋がるきっかけにもなっている
- ・神栖市にはコンビナート企業が多く立地。今後も産業医の資格がある医師が増えてくるため、産業医と臨床を掛け持ちができるのも魅力の一つ
- ・神栖市では医療について行政と医療機関が協力してアピールする土台ができつつある。神栖市・病院の魅力を発信していくことで、熱意のある医師に来てもらい、市民が求める医療を充実させていきたい

白十字総合病院 総合診療科 畑 拓磨

- ・医師、会社の代表、歌手という3つの顔で活動をしている
- ・医師として救急車を断らないという強い意識を持ち、日々診療に当たっている
- ・学生時代は地域医療の課題解決について、医療という切り口しか持っていなかったが、地域医療の舞台の主役は市民の方々であり、医療だけではなく、市民の生活を知ることが重要と感じている
- ・地域医療を多様なアプローチで考え、盛り上げる力添えをしていきたい

鹿嶋ハートクリニック 理事長 黄 恬瑩

- ・鹿嶋市での勤務を経て、この地域の循環器医療に課題が多いことを感じ、神栖市で診療所を開業した
- ・1人でスタートした診療所は、今では常勤医師12名となり、専門的な医療を提供できるまでに成長。心臓血管外科手術やステントグラフト等の手術をはじめ、多くの医療機関と連携し、質の高い医療を提供できるよう努めている
- ・しかしながら、まだまだ課題も多いと感じており、今回のシンポジウムを通じて解決の道筋や原動力を見出していきたい

鹿嶋ハートクリニック 心臓血管外科センター長 古谷 光久

- ・心臓血管外科として専門性の高い診療を提供している
- ・医師がどこで働きたいかの理由・モチベーションは「専門性を高めるための研修が充実しているか」「自身の専門性が発揮できるか」などの要素が重要だと感じている
- ・人や地域との「縁」も大切であり、何かの縁でその土地を訪れ、いい思い出が重なっていくことで医師が定着することに繋がる
- ・今後は緊急を含めた手術に24時間対応できるよう、医師をはじめ看護師・コメディカルの一層の充実を図り、全ての心臓外科診療を地域で提供したい

神栖済生会病院 副院長 西 功

- ・内科診療を通じて地元の茨城県に貢献したいと考え、神栖市内に就業
- ・学生時代は地域医療についての大きな問題意識はなかったが、茨城県に戻ってきた際に医師不足の現状に直面
- ・広範囲の診療科の標準的な診療を提供できる院内の体制構築が目標。そのために、臨床研修病院の指定を受けることも視野に入れている
- ・医療スタッフが少なく、病床の拡大も難しい現状ではあるが、課題解決に向けて一歩ずつ進んでいきたい

神栖産業医トレーニングセンター 統括指導医 田中 完

- ・救急救命医として奮闘する中、根源的な問題解決の必要性を感じ、産業医の道へ進んだ
- ・自身が担当したあるコンビナート企業では、健診の後の治療の受診率が著しく低下していたが、従業員への健康教育の徹底と受診できるような仕組みを組織に取り入れたことで、受診率が向上。脳心疾患と癌による死亡者を減らすことに繋がった
- ・医師が少ないという神栖市の課題を踏まえ、当地域の優位性を生かしつつ、未病の段階から企業に介入できる産業医の教育に力を入れていきたいと考え、「神栖産業医トレーニングセンター」を設立
- ・将来は、臨床医と産業医の連携により、医療と経済の両軸で地域医療を盛り上げていきたい

神栖産業医トレーニングセンター 産業医 釜野 彬仁

- ・産業医の修練を積む中で、企業の経済活動を身近に感じられることがこの地域で勤務するモチベーションの一つ
- ・「来院した際に病状が進行してしまっている」という手遅れパターンを防ぐためには、定期的な健診の受診が大切
- ・また、近年では「病気をもちながら、どう働くか」というテーマも重要。完治が難しい病気や腰痛・片頭痛などの症状を抱えながら働き続けられるアプローチを医療の大事な役目として力を入れていきたい

神栖済生会病院 内科医員 巴 悠記 (動画出演)

- ・理想の地域医療は「住み慣れた地域に家族と住むという当たり前の暮らしの中で、必要に応じて大病院とかかりつけ医で安心して医療を受けられること」だと思う
- ・神栖市では医師だけでなく、看護師や検査技師、薬剤師などあらゆる医療職種が不足しており、市内でも医療資源が偏在していることが課題。一方で、総合診療医としては、幅広い診療が提供できるという点で魅力的なフィールドでもあると感じている
- ・自身の目標のひとつは、総合診療科の医師として、小児から高齢者まであらゆる世代の患者さんを診ることができるようになること。将来は訪問診療を専門とし、患者さんがご家族と自宅で住み続けることを支えられる医師として地域医療に貢献していきたい

○ディスカッションでの主な発言

- ・医学生を育てるためには、医療機関だけではなく、企業や市民が一緒になって関わっていくことが大切。それが地域への愛着に繋がる
- ・神栖市内には様々な機能を持つ医療機関があり、その連携について建設的に議論していくことが重要
- ・医療資源が乏しい地域においては、専門性ではなく総合性が求められることもある。そのような観点から、総合診療に対する住民理解の促進が必要
- ・現在、神栖市内で不足している小児診療については、かかりつけ医、診療所も併せて協議を重ね、連携・分担の仕組みを確保している
- ・急性期の治療が終わってから、地域でどう振り分け、連携していくか。システムの構築が必要
- ・地域医療にはジェネラリストが必要。医師不足の中で育成と中途採用の両立が求められている
- ・神栖市としては、今後も若手医師が夢を持って来てもらえる環境づくりを推進していきたい
- ・医師招へいに当たっては、地域医療への志が高い医師にターゲットを合わせてアピールしていくことが肝要。地域医療への意識が低い人のマインドを変えることは難しい
- ・医学生としては、色々な医師とコミュニケーションを取りたいと考えている。地域で活躍している医師から刺激をもらうことで、地域医療へのマインドが感化されることもある
- ・興味を持って神栖市へ訪れる医学生・医師を育成することが必要。

そのためには「神栖市独自の魅力は何か」を建設的に議論し、情報発信していくことが必要

- ・大学では、学生が毎年実習で神栖市を訪れ、診療だけではなく、コミュニティを学ぶ活動を行っている。医師としてのコミュニケーション力の向上に寄与している
- ・市民としては、かみす健康ダイヤル24を利用した経験を踏まえ、すぐに医師に頼るのではなく、そのような仕組みを活用して医師の負担を減らしていくことを意識したいと思う
- ・人口減少により医療資源が少なくなる中で、医療提供体制を是正するためには、患者や家族などの市民が医療者を評価できるようになることが鍵。そのために、若いうちからの医療教育が重要

オ 交流会（18：00～20：00）

T A O医師団学生実行委員の企画による交流会を開催した。「夢を語る宴」をテーマに、参加者が悩みや野望を発表し合うなどして、親睦を深めた。

(2) 2日目（10／14）

ア トーク&トーク第2部（9：30～11：00）

テーマ3 「地域医療を志す医師が働きたいと思える環境、体制」

○ディスカッションでの主な発言

- ・「外部からこういう医師が来てほしい」という観点と、「神栖市で働いている医師がより神栖を好きになって働いてくれるには」という観点の二軸で議論することが必要
- ・地域に医師が学べる環境やキャリアアップを支援する環境があることが、就業する医師のモチベーションに繋がると思う
- ・市内医療機関では、医療クラークの配置や電子カルテの整備などにより、医師の本来業務に専念できる環境づくりに取り組んでいる
- ・医師不足が叫ばれる中、教育のためには余裕を持った医師の配置が必要。そのために、全国にいるであろう「若手を育てたい」というマインドを持つ医師へ情報発信していくことが必要

- ・救急医療体制が脆弱であることを自覚している中でも「神栖に住み続けたい」という市民の思いに医療者が寄り添い、建設的に議論することが必要
- ・学生としては、救急医療が十分でないという状況も積極的に情報発信してほしい。そうすることで、「自分が必要とされる場所で働きたい」という学生の共感を生み、将来の医師確保に繋がると思う
- ・指導医としては、医療過疎地域で勤務する義務を課すなどの制度によって医師を集めるスキームに限界を感じる。そのような地域にやりがいを求めている医学生もいるため、ターゲットを絞った情報発信が鍵。指導医には「若手を育てあげる」という情熱が必要
- ・市民の声を取り入れ、病院、大学、行政が一つになって議論することが課題解決につながる
- ・今回のシンポジウムは様々な立場の人が互いの思いをぶつけ合うよい機会。これで終わりではなく、このような会を繰り返し、市民に浸透させていくことが重要
- ・市内の公共交通機関が充分でないために、かかりつけ医への受診が途中で途絶えてしまうケースがあり、フォローの必要性を感じる
- ・医療機関としては、医療に対する市民の声を拾い上げ、医療提供側がリアルタイムで返信できるような仕組みがほしいと考えている
- ・医療者だけで医療提供体制をつくることはできない。市民と医療者がお互いに思いやりを持って協力し合うことが大事
- ・学生には、何事にも学ぶ姿勢でこれからも頑張っていってほしい
- ・全国的に医療資源がひっ迫していく中で、神栖市でこのようなシンポジウムが開催できたことを前向きに捉えたい
- ・市民として、全国から地域医療を志す医療者の方々が集まり、市民の要望などを率直に聴いてくれたことに感謝したい。医療提供側に求め、頼るだけでなく、市民も一緒に頑張っていきたい

イ 神栖宣言（11：15～11：45）

（全体）

地域医療を志す医師が思う存分活躍できる環境づくりを進めるため、

- 地域医療の舞台となる地域の様々な主体は、互いに尊重し合い、それぞれの思いに触れよう
- 地域医療を志す者、牽引する者、サポートする者、支えられる者、それぞれの持てる力を引き出し、高め合おう。そのためにも、本音で話し合える場を継続して持とう。特に、地域医療を志す者を育て、励まし、鍛えるのは市民であることを再認識しよう
- 市民、医療機関、行政、学生、指導者は、このシンポジウムで得た感動を忘れず、神栖宣言の趣旨を心に刻み、地域医療を志す者が学び、働き、活躍するフィールドづくりに全力を尽くそう

（神栖市）

神栖市は、神栖市若手医師きらっせプロジェクトを推進し、地域に隠れている様々な想いを、具体的でポジティブな力に変えて発信していこう。発信に当たっては、市民の思いを踏まえ、この場でのやりがいを明示するとともに、情報を受け止める医師に自分が求められていることを伝えていく。

地域の関係者が一つに繋がっていけるよう、大人の事情はさておき、思いをぶつけ合う場を来年度も開催する。

医療機関は院内のスタッフが信頼し合い、チームとなって働き、生きがいを感じられる環境づくりに全力を尽くす。

以上